

事業所名	支援プログラム（児童発達支援）	作成日	2025年	2月	19日	
法人（事業所）理念	児童たちが、ご家族や他児童とのつながりの中で、「楽しくまなび、楽しく過ごす」ことを目指します。	営業時間	9時 30分から 17時 00分まで			
支援方針	児童が楽しめる場所を作ります。児童の「強み」を見つけています。児童一人一人に合わせた課題を見つけます。チームで療育を行います。他の療育・教育機関との協働を大切にします。児童の頃から変わらぬいつもの通所先として、お子さんの様子に合わせて、個別・小集団のサービスを提供します。家、学校以外の居場所として安心して過ごせる環境を作ります。	送迎実施の有無	あり	なし		
ねらい	支援内容	具体的な活動や支援内容				
健康・生活	(a) 健康状態の維持・改善 (b) 生活のリズムや生活習慣の形成 (c) 基本的生活スキルの獲得	(a) 健康状態の把握 健康状態を育むと自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行なう。その際、恩恵表示のための手帳やお子さまの障害の特徴及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなお子様から心身の異変に気づけるよう、きめ細かな觀察を行なう。 (b) 健康の維持 睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付くらるよう支援する。また、健常な基本となる食生活の育成に努めることで、実際に楽しむ事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・自動具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への留意を行い、健康状態を確認します。始まりの会では、健康状態や気持ちの表現を質問し、言葉やイラストを選んで自分の気持ちを表現できるよう促します。困り事がある際は、気持ちのカードや言葉のモデルを示し、自分で表現できるよう支援します。また、日常生活に必要なスキル（食事・排泄・着替えなど）の習得を支援し、教室の日課に沿って、生活リズムを整えるよう配慮します。（作業療法士、姿勢や動作の改善に関するアドバイスを行ないます。） (c) 生活のリズムや生活習慣の形成 日々の生活リズムを育むための手帳やお子さまの特性に合わせて、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (d) 基本的生活スキルの獲得 日々の生活リズムを育むための手帳やお子さまの特性に合わせて、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。 (e) 構造化等による環境を整える 生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。	例 ・整理整頓をする ・忘れ物をなくす ・物をしまう ・手洗いした探し物を取り組む ・環境に慣れる、見直しを持つて過ごす ・自分自身のスケジュール管理			
運動・感覚	(a) 姿勢と運動・動作の向上 (b) 姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 (c) 保有する感覚の総合的な活用	(a) 姿勢・運動・動作の基本的な技術の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 (b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 姿勢保持で各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。 (c) 身体の移動能力の向上 自力での身体移動や歩行、椅子や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行なう。 (d) 保有する感覚の総合的な活用 保有する感覚器官を利用して状況を把握しやすくなる眼鏡や補聴器等の各種の補助器具を活用できるよう支援する。 (e) 感覚の練習及び代行手段の活用 保有する感覚器官を利用して状況を把握しやすくなる眼鏡や補聴器等の各種の補助器具を活用できるよう支援する。 (f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行なう。	例 ・体操などを通じて、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動能力の向上を目指します。『サークル』などの異なる運動や動作を組み合わせた活動を通じて、筋力、持久力、柔軟性などの運動能力を高めます。注意して取り組んだり、集中して取り組めるような環境を整え、楽しく取り組めるよう支援を行ないます。 ・色彩や形で表現するプリントや教材などの教材を用いて、視覚的に理解する力を引き出します。 ・様々な楽器や音を使った活動、リストに合わせて体を動かしたり、音を聞き分けたりする活動を通して、楽しい活動の中で聞くことや聴いて理解する力を促進します。 例 ・姿勢維持 ・段階を乗り越えられるようになる ・体、体を使った活動に取り組む			
本人支援	(a) 認知の発達と行動の習得 (b) 空間・時間・数等の概念形成の習得 (c) 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得	(a) 感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行なう。 (b) 知識や行動の認知過程の適応 環境から情報を取り取ることから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 (c) 認知や行動の手掛けかりによる概念の形成 物の機能や性質、形、色、音等を変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛けかりとして活用できるよう支援する。 (d) 数感・大小、色等の習得 数感の大きさ・大きい・小さい等の習得のための支援を行なう。 (e) 認知や手掛けりの対応 認知の特性を踏まえ、自分についてくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行なう。 (f) 行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行なう。	例 ・手を正確に理解する ・想像する、イメージする力を身に着ける ・複数指を覚えて行動する ・集中力を伸ばす	買い物や料理を通してお金の使い方や計算、時間の管理などを学ぶ機会を提供します。絵本や歌、パズル、時間を計るゲームを使い、楽しみながら空間・時間、数の概念を学び、深めます。お子さまが自ら問題を解決する機会を与え、教材や教具を用いて視覚的に理解しやすい支援を行ないます。		
言語コミュニケーション	(a) 言語の形成と活用 (b) 言語の変容及び表出 (c) コミュニケーションの基礎的能力の向上 (d) コミュニケーション手段の選択と活用	(a) 言語の形成と活用 具体的な事物や体験や言葉の意味を結び付ける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行なう。 (b) 受容言語と表出言語の支援 話の言葉や文書の文脈・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出す支援を行なう。 (c) コミュニケーション能力の向上 個人との接続性にこだわって、コミュニケーション能力の獲得 個人に配慮した場面やお友達とのコミュニケーション能力の獲得 (d) 指差し・身振り・サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 (e) 読み書き能力の向上のための支援 発達段階の子さまほど、隠れ特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行なう。 (f) コミュニケーション機能の活用 各言語の文字・記号・統一カード・機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	例 ・お友達に言葉で伝えれる ・お友達に「入れて」「抜けるね」を伝える ・おもちゃの貸し借りで遊ぶことができる ・お友達の話を最後まで聞く	お子さまの興味や興味を刺激し、職員が意図を理解し店舗しながら、遊びややりとりを通じて入への関心を広げます。表情やジェスチャー、視線などをを使ったコミュニケーションをサポートします。実際のものを見たり触られたりしながらことばの理解を深めます。歌やリズム、ゲームを通じて楽しくことを学ぶ機会を設け、職員が見本を示しながら支援します。 例 ・お友達に言葉で伝えれる ・お友達に「入れて」「抜けるね」を伝える ・おもちゃの貸し借りで遊ぶことができる ・お友達の話を最後まで聞く		
人間関係・社会性	(a) 他者との関わり（人間関係）の形成 (b) 自己の理解と行動の調整 (c) 仲間づくりと集団への参加	(a) アタッチメント（愛着行動）の形成 人の間柄を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行なう。 (b) 模倣行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 (c) 感覚運動遊びへの支援 感覚運動遊びを通じた協同遊び等を通じて、他者の関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わらしながら遊びや遊びのモデルを示します。 (d) 一人遊びから協同遊びへの支援 周囲に子供がいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊び協同遊びを通じて、各自の社会性の充実を支援する。 (e) 自己管理・コントロールのための支援 大人を左右する自分の行動など、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 (f) 集団への参加への支援 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	例 ・自分の感覚と向き合う ・自分の周りが見えるようになる ・適切な大きさで自分の気分で調節することができる ・場面に応じて適切なティッシュ等で過ごす ・お友達との距離感に気を付ける ・単純作業に集中して取り組む	事前に視覚的な手順を用いて丁寧に説明し、お子さまが安心して集団活動に参加できるよう支援します。少人数での体操やゲームなどの活動を通じて、社会性の向上を促します。またお子さんは自分が自分や他人の感情を理解し、適切に表現できるよう職員がモデルを示します。 グループでの協力コミュニケーションを促す活動を通じて、他者の関わりや協力の重要性を学び、社会的スキルを育てます。お友達との遊びの場面では、職員が関わらながら遊びや遊びのモデルを示します。 例 ・自分の感覚と向き合う ・自分の周りが見えるようになる ・適切な大きさで自分の気分で調節することができる ・場面に応じて適切なティッシュ等で過ごす ・お友達との距離感に気を付ける ・単純作業に集中して取り組む		
家族支援	・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を遅延時（お迎え時）や、写真付きでサービス提供機関にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングとは別で面談の機会を設け、保護者に共有しています。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントや関わり方のフィードバックを行ないます。	移行支援	・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との関わり方にについて情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所での様子を他事業所や相談支援に対し、訪問、電話等で伝え、日々の様子の情報交換を行ないます。 ・学校(保育園・幼稚園)への遅延時、先生と学校(園)での様子や事業所での遅延時の情報共有を行ないます。			
地域支援・地域連携	・関係機関で役割分担し、情報を共有を行ないます。 ・連携会議を定期的に開催し、情報収集・役割分担に貢献します。 ・各施設の運営方針を理解し、共通の目標に向かって協働します。 セラフプランの方には利用計画のコードカードへの中核を担う事業所の開催する会議に参加し、情報共有を行ないます。	職員の質の向上	プロッサムグループ本部にて下記研修実施 ・スタッフ研修 ・情報収集によるスキルアップ研修 ・虐待防止研修 ・身体拘束適正化研修 ・感染症対策研修 その他 児童発達支援にて他教室との情報・意見交換実施			
主な行事等	・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動					